

開催地名：東京都昭島市	
開催日時	令和3年12月11日（土） 9:00～11:00
開催場所	昭島市役所1階市民ホール
語り部	糸日谷美奈子（千葉県千葉市）
参加者	市防災課職員、自主防災組織 約80人
開催経緯	自主防災組織を含めた市民の防災への意識啓発を行い、「自助」「共助」の取組を推進していくこと。 女性視点を取り入れた防災対策。 新型コロナウイルス感染症対策を含めた避難所運営。
内容	<p>(1) 東日本大震災発生の背景</p> <p>私は岩手県の中学校で11年間教師として働き、釜石東中学校で東日本大震災を経験した。岩手県釜石市は県の沿岸南部に位置する町で、世界遺産に登録された日本最古の洋式高炉がある。また、2019年に開催されたラグビーワールドカップの開催地は釜石東中学校の跡地である。当時、釜石東中学校は270名の生徒が在籍していた。</p> <p>釜石市では明治・昭和にあった地震津波で大きな被害を受けたため、震災よりも前から防災に取り組んでおり、学校でもさまざまな防災学習を行っていた。生きている間に必ず大きな地震が来るとも言われていたので、一人ひとりの危機意識は高かった。</p> <p>(2) 震災時の被害状況</p> <p>3月11日2時46分、中学校で帰りの会を終えた頃に大きな地震が発生した。地面は波打つように揺れ、校舎にいた生徒・先生は外に避難をした。2、3分の長い揺れが落ち着き、サッカー部員は避難所に向かって走り出した。それを見た他の生徒・先生もバラバラと走った。第1避難所に集まったものの、海拔は学校と変わらないため、そこから400mほど上がった第2避難所へ向かった。最終目的地に着いたのは地震発生から30分後。ここは最終目的地であるため大丈夫だろうと思った瞬間、海の方角からドーンと大きな音が聞こえてきた。呆然と立ち尽くしていたら、近くにいた先生が「逃げろ！死ぬぞ」と叫び、みんなハッとして一斉に走り出した。国道を突っ切り、山を登った。雪が降り、ずっと山の中で過ごすことはできなかったため、先日開通した有料道路を通過して釜石市役所まで移動することにした。最終的にはその隣にある廃校になった中学校の体育館で一晩過ごすことに</p>

	<p>なり、地域住民 2000 名以上が身を寄せた。</p> <p>この震災で釜石市は 10 メートルを超える津波が到達。888 名が亡くなり、154 名行方不明となった。幸いにも中学校・小学校で被災した子ども達は全員無事に避難できたため、後に「釜石の奇跡」と報道されることになった。</p> <p>(3) 被災して感じたこと</p> <p>「津波てんでんこ」は、てんでばらばらに逃げなさいという釜石の言い伝えである。子どもは親のところに戻らず、親は子が帰るのを待つのではなく、その場から安全な場所に避難しなさいという内容。お互いを信頼してまずは逃げて、自分の命を自分で守れば他人の命を守ることにつながる。だから、私たちは奇跡を起こしたのではなく、当たり前行動をただけである。</p> <p>本当は、事前に取り組んでいた防災学習を学校だけではなく地域全体にもっと共有すべきだったのではないか。そうすれば被害を抑えられたのではないかと感じる。</p> <p>今後は、「自分の命は自分で守る。助けられる人から助ける人へ。学んだことを地域に伝える。」この 3つを合言葉にして、多くの人に学びや経験を共有していきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>昭島市では後悔しない未来をつくるために、地域住民一人ひとりの防災意識を高めていきたい。</p>